



創立昭和46年  
(Founded 1971)

日本学術会議協力  
学術研究団体

2013年10月 (104号) No. 104, October 2013

Web版

# CAJ News

日本コミュニケーション学会ニュースレター  
ホームページ: <http://www.caj1971.com>

日本コミュニケーション学会 事務局  
〒480-1197 愛知県長久手市片平9  
愛知淑徳大学メディアプロデュース学部 五島研究室内  
電話0561-62-4111 & FAX0561-63-9308 e-mail: [cajoffice@caj1971.com](mailto:cajoffice@caj1971.com)

## 継続して対話する力が社会を変える

会長 宮原 哲 (西南学院大学)

猛暑や大雨の記録が塗り替えられた夏がようやく過ぎ去り、研究や教育でご多忙な秋の日々をお過ごしのことと察します。

季節が変わると遠い過去のようにも思えますが、第43回年次大会を立教大学で開催し、成功裏に収めることができたのはつい数ヶ月前の6月22・23日でした。今年度は「コミュニケーション学と教育」のテーマの下、佐藤学先生の学術講演、「学びにおけるコミュニケーションの構造—対話的实践による学びの共同体へ—」に始まり、多くの研究発表、ディベート、それに本田由紀先生と谷田川ルミ先生をお招きして開催した、「キャリア教育におけるコミュニケーション教育」の一般公開シンポジウムで幕を閉じました。

スタッフの献身的な尽力と、東京での開催、また、教育をテーマに取り上げた年次大会ということもあり、多くの方々に参加していただくことができました。ありがとうございました。

そこで多くの教訓を得ることができましたが、その中で大切なものの一つが、「教育は対話の継続（プロセス）」だったと思っています。人間は生後、家庭、保育園・幼稚園、それから小中高の学校を経て、多くの人たちが「最高学府」と呼ばれる大学で教育を受けますが、それで終わりなのではなく、そこから始まる、ということなのです。

社会に出て就職したり、結婚したり、子育てをしながら常に、そして人生を終えるまで継続して携わるのが、人間にしかできない学習・教育です。中でも人間関係を通して習得できるコミュニケーション力や、自分を知り、向上させる能力は特に社会に出た後、重大な意味を持ちます。佐藤先生の、「他者との対話、自分との対話、社会との対話を通して学ぶ共同体が学校」という言葉が印象的でしたが、その「学校」とは物理的な校舎や運動場がある学校に限らず、社会全体ということができます。

インターネットや携帯電話といった道具を使い、誰もが気軽に世界へメッセージを発信することができるようになった今、コミュニケーション学の研究と教育に携わる私たちが日本に限らず、世界に対して負う責任はますます大きくなってきていると実感します。アルバイト中、悪ふざけをして画像を送ったり、またそのことへの口汚い批判をブログに掲載したりと、自分が発信する情報の影響を考えた大人のすることでは到底ありません。

単なるメッセージのやり取りに限ることなく、社会そのものを築き、発展させ、その過程の中で人が生きるべき道や倫理観などを形成する過程がコミュニケーションと考えると、今後も私たちの学会に課せられる研究課題は無限です。これまで「コミュニケーション学とX」というテーマで、「X」に2006年からそれぞれ文学、文化人類学、演劇、カルチュラル・スタディーズ、政治学、人間科学、歴史、そして今年までの教育まで、幾多の近接学問領域を当てはめ、コミュニケーション学との接点や相違点を探ってきました。

今後もコミュニケーション（学）の本質を明らかにする学会活動を続けます。開催地もできるだけ全国で展開したいと考え、来年度は沖縄、2015年が中部、そして2016年はICA（国際コミュニケーション学会）が日本初の年次大会を福岡で開催するのに合わせ、何らかの形で連携した会にしたいと願っています。

大会テーマと開催地は、最終的には理事会での承認を要しますが、各支部を通して、あるいは個人の会員の皆様から直接ご提案やご意見をうかがうこともできます。開かれた、そして研究結果を社会に還元することを最も重要な目的と考える日本コミュニケーション学会に、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願いいたします。

## 第43回年次大会報告

大会実行委員長・副学術局長 師岡 淳也（立教大学）

6月22日(土)・23日(日)に立教大学池袋キャンパスで開催された第43回 CAJ 年次大会について、大会実行委員長および年次大会担当理事としてご報告いたします。今年度は「コミュニケーション学と教育」という統一テーマの下、22件の個人研究発表と2件の研究会パネルが行なわれ、授業評価や獣医療コミュニケーション教育から介護施設利用者と介護者のコミュニケーションまで幅広いトピックについて活発な議論と意見交換がなされました。また、初日の午後には学術講演が開かれ、学習院大学の佐藤学先生に「学びにおけるコミュニケーション構造」についてお話いただきました。講演後のシンポジウムには松本茂先生（立教大学）と石橋嘉一先生（山形大学）にもパネルに加わっていただき、大会テーマについてさらに掘り下げて検討していきましました。「積極的な話し合い=学びの成立」というわけではないことや「資質 (trait) アプローチ」に基づかない能力概念を構築する必要性が指摘されるなど、非常に有意義な学術交流の場となったと思います。

大会中は、個人研究発表・研究会パネル・学術講演の他にも、複数の特別企画が実施されました。初日の午前中には学術局セッションが開かれ、海外の学術誌への投稿から掲載までの流れを、奥田博子先生（関東学院大学）と花木亨先生（南山大学）にお話しいただきました。2日目も、サンノゼ州立大学の Anne Marie Todd 先生による特別講演（Patriotic Rhetoric & Global Citizenship）、日米交歓ディベート（論題：Is switch-side debate educationally undesirable?）、公開講演会（「キャリア教育におけるコミュニケーション教育」）と盛りだくさんの内容となりました。とくに本田由紀先生（東京大学）と谷田川ルミ先生（芝浦工業大学）にご登壇いただいた公開シンポジウムは、キャリア教育に対する社会的関心の高さもあり、160名を越える参加者を集めました。その半数以上が年次大会に参加されていない方々であり、今回の公開シンポジウムはCAJの活動に対する認知度を高めるよい機会になったと考えております。内容面でも、戦後日本におけるキャリア支援・教育の歴史的変遷を振り返るなど、より広い文脈からキャリア教育とコミュニケーション教育の関わりを考える契機となったと思います。その一方で、パネリストと聴衆の対話により多くの時間を割き、キャリア教育だけでなく、（キャリア教育内外での）コミュニケーションの捉え方やコミュニケーション教育のあり方についてもより深く話し合うことができればよかつたのではないかと感じました。今回の経験を生かして、来年度の公開シンポジウムの企画を立てていきたいと思ひます。

さて、来年度はCAJ年次大会を初めて沖縄で開催することになりました。今回の大会から、個人研究発表だけでなく、パネルディスカッションやワークショップなど、様々な形式での企画セッションの申し込みを受け付けております。自由な発想のもと、コミュニケーション研究・教育の発展に資する企画を立てていただき、年次大会に応募していただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の年次大会の参加者の皆さま、運営にご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。



日米交歓ディベート



大会二日目 公開シンポジウム

## 総会報告 (2013年6月22日 14:40-15:40)

1. 総合司会の五島幸一事務局長より、総会第1部の開始が宣言された。宮原哲会長、開催校の立教大学の石川文也・立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科言語科学専攻主任より、歓迎の挨拶が述べられた。
2. 守崎誠一学術局長より、奨励賞受賞者の鈴木健人・鈴木健・塚原康博各氏(書籍の部[教科書・啓蒙書]:『問題解決のコミュニケーション:学際的アプローチ』)、池田理知子氏(論文の部:「水俣病/水俣事件を語り継ぐための模索:対話形式の語りの場の可能性」)が紹介され、宮原会長より各氏に賞が贈呈された。
3. 感謝状が、森川知史・前年度年次大会実行委員長に贈呈された。
4. 師岡淳也・第43回大会実行委員長より、挨拶が述べられた。
5. 清宮徹学術局副局長より、事務連絡が行われた。
6. 五島事務局長より、第1部の閉会が宣言された。
7. 引き続き、五島事務局長より会員向け報告・審議を行う第2部の開会が宣言され、花木亨会員(南山大学)の議長就任が、拍手で承認された。
8. 花木議長より、会則39条では、「会員総数の5分の1以上の出席」が議決の条件であることが確認された。それに基づき、現時点における会員数418名の内、総会出席者50名、委任状94通の合計144名(会員数418名÷5=84名)で、総会が成立したことが確認された。また、與古光 宏副事務局長の書記就任が、拍手で承認された。
9. 宮原会長より、2012年度事業報告として:(1)第42回記念年次大会の開催(2012年6月16日[土]~17日[日]、於:文教学院短期大学、大会テーマ:「コミュニケーション学と歴史」)、(2)各支部大会の訪問、(3)通常の3回の理事会開催、(4)(5)ジャーナル(合併号)刊行(論文3本を含む)が報告された。この中で、会長が全国の7支部大会全てを訪問し、会員同士の結束、本学会全体の更なる団結、ならびに各支部の特色を発揮しての発展を呼び掛けた。

また、2013年度事業計画として:(1)2013年5月末に最終号が発行された、『ヒューマン・コミュニケーション研究』『スピーチ・コミュニケーション教育』に替わる、『日本コミュニケーション研究(Japanese Journal of Communication Studies)』の創刊(第1号は、2014年5月末発行予定)。(2)電子版ニュースレターへの、段階的移行措置の実施:2014年5月31日までは、移行期間として紙媒体と並行して発行し、同年6月1日以降は完全電子化する計画(※それ以降も紙媒体形式を希望する会員は、事務局に連絡すること)が、それぞれ報告された。

最後に、2014年度・第44回年次大会開催地として沖縄(開催校および開催日程は未定)が発表された。さらに、今後の予定として、2015年度・第45回年次大会開催地として名古屋が、2016年度・第46回大会開催地として福岡が、併せて発表された。
10. 宮原会長より、2013年6月1日より発足した新体制、ならびに役員人事案が発表され、拍手で承認された。
11. 鳥越千絵副事務局長より2012年度決算報告として、以下の点が示された。
  - 1) 収入
    - ①「年会費収入」に関しては、前年度より減額。
    - ②「年次大会参加費」項目内「懇親会参加費」に関しては、合計73名の参加者により増額。「広告費」は、昨年度年次大会での9社分、「展示費」は5社分が計上された。
    - ③「雑収入」項目内「電子図書サービス関連」は、昨年度に引き続き増収。



## 2) 支出

- ①「ジャーナル発行費」項目内・「印刷費」および「通信費」に関しては、合併号という形式であったため、増額の度合いは前年度に比べると若干低かった。
- ②「ニュースレター費」は、過去数年度分に引き続き増額。しかし、会長が2013年度活動計画でも発表していたように、2014年6月より完全電子化する予定であり、当該の支出も減額出来ることが見込まれる。
- ③「会議費」項目内「理事交通費」に関しては、関東支部以外からの理事の増員、および企画会議の新設により、予算額を上回った。

五十嵐紀子監事（新潟医療福祉大学）より、厳正な監査の結果、適正な会計処理が行われていることが報告された。上記の内容が、拍手で承認された。

## 12. 鳥越副事務局長より2013年度予算案として、以下の点が示された。

### 1) 収入

- ①「年会費」に関しては、今年度会員数の現状に合わせて減額。
- ②「年次大会関係費」項目内「大会参加費」に関しては、今年度年次大会の状況を考慮して作成。「懇親会参加費」に関しては、関東（東京）での開催に伴い増額。「広告費」ならびに「展示費」は5社より。また、開催校の立教大学からの「助成金」を計上。

### 2) 支出

- ①「ジャーナル発行費」項目内「印刷費」は、2011年度・2012年度は2冊を合併号としていたのに対し、今年度は従来の2冊体制の復活ならびに特別企画2本の掲載につき増額。
  - ②「ニュースレター費」は、前年度に引き続き増額。
  - ③「年次大会関係費」項目内「その他」に関しては、トップツアー手数料ではあるが、今回は東京での開催に伴う参加者数増加による増額。
  - ④「学術事業費」項目内「教育事業費」、ならびに「予備費」項目内「積立」は、計画されている行事予定がないため、今年度は積立を停止し、行事計画が出た時点で再開するものとする。
- 上記の内容が拍手で承認された。

## 13. 司会の五島事務局長より、総会終了が宣言された。

# 学 術 局 報 告

## 2012年度学会賞報告

### 奨励賞：書籍の部（教科書・啓蒙書の部）

鈴木健人・鈴木健・塚原康博（共編著）による『問題解決のコミュニケーション：学際的アプローチ』（白桃書房）は、社会問題をコミュニケーション・プロセスに還元し、いかに解決していくかという思考を示したものであり、副題に「学際的」という表現にあるように、編著者らは「問題解決」をキーワードに多領域から集められている。コミュニケーションに関わる教科書および啓蒙書の多くが、近年さまざまなかたちで喧伝されている「コミュニケーション力」を念頭に置いた“ハウツウ”の側面を強く持つものである中で、本書はそれらとは明らかに異なる特徴を持つ“教科書”であって評価できる。各章で論じられるトピックの「キーワード」が最初に示さ



左から、宮原会長、鈴木健先生、鈴木健人先生、塚原先生

れていること、その章で扱われる内容に沿った「エクササイズ」が用意されていること、充実した「参考文献」がリストされていることなど、読者に対して主体的に学び・考えさせる工夫がおこなわれていることも評価できる。

また、デビッド・ザレフスキー氏の寄稿に代表されるように、これまでほとんど一般的には知られることのなかった、米国における（前世紀初頭からの「レトリック教育」の伝統を引き継ぐ）“メインストリーム”なコミュニケーション研究の視点からの社会問題（妊娠中絶論争）の分析を所収している点は、これまでアクセスが英語を解する者のみに限られていたこの手の研究を和書（の一部）として出版したという意味でその意義は小さくない。

反面、紙幅の関係から現代社会におけるコミュニケーション関わる諸問題を網羅的に扱うことが難しいという点を考慮したとしても、多領域な論考を十分にまとめきれていない点や同じような解説がその目的は異なるものの複数の章でみられるなどの点については不満を感じた。

しかしながら、すでに述べたように所収された各執筆者の論述（「章」）の教育的価値には見るべきものがあり、“教科書”としての創意工夫にも評価できる点があることから、本書に対して2012年度の日本コミュニケーション学会「奨励賞」（教科書・啓蒙書の部）を授与することとした。

## 奨励賞：論文の部

池田理知子著「水俣病／水俣病事件を語り継ぐための模索—対話形式の語りの場の可能性—」（スピーチ・コミュニケーション教育、第26号掲載）は、「当事者性」「記憶の継承」「対話」など、コミュニケーション学において重要なテーマが直接的かつ有機的な形で論じられている。これらをテーマにした研究は既に数多く存在するが、本論文は「語り部補助」というこれまで見落とされてきた存在、とりわけ「語り部」と「語り部補助」の対話形式の講話がもつ可能性に目を向けている点で独創性がある。特に、こうした対話が、語りのパターンリズムの危険性を打破し、より自由な語りを生み出すだけでなく、第三の参加者である「聴衆」をも巻き込み、3者によるよりダイナミックな意味構築と交流の場を創出する可能性を指摘している点は興味深い。また、狭義での「当事者」に依拠しない「記憶の継承」のあり方を模索するなど、本論文が、水俣病資料館のみならず、「負の遺産」を語り継ぐことを目的とした資料館に与える示唆も大きい。さらには、研究手法についても、3年に及ぶフィールドワークを通して収集した豊富なデータを基に多角的な分析を行っており、今後のコミュニケーション研究のあり方に重要な指針を与えるものといえるだろう。



池田先生と宮原会長

その一方で、アクティブでダイナミックな語りの場を可能にする要因についての分析は不十分に思われる。例えば、マニュアルに沿った対話の限界や相手に関心をもつことの必要性など、対話の問題点や可能性についてはやや常識的な見方を指摘するにとどまっている。また、筆者も指摘するように講話は、語り部、語り部補助、聴衆の「三者間のインターアクション」を通して成立するものだが、講話の場で聴衆が果たしうる役割についても十分な考察が行われているとはいえない。本論文が大きな研究プロジェクトの“過程”の報告の側面が強いこともいえない。

しかしながら、上述したように、研究としての独創性や議論の質の高さという意味では学会員の模範となるような論文でもあるため、本論文に対して日本コミュニケーション学会の「奨励賞」（論文の部）を授与することとした。

## ジャーナル投稿について

2014年5月末発行予定の次号より、いよいよ『ヒューマン・コミュニケーション研究』と『スピーチ・コミュニケーション教育』が統合され、『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)が刊行されます。これまでの年1回2冊の発行を年2回1冊とし、投稿締め切りも半年ごとになります。

投稿方法も郵送ではなく、ワード等で作成したファイルを指定のメールアドレスに添付して送信していただくよう変更しています。具体的には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「A4判用紙」に書くべき情報に「ファイル作成に使用した機種」を加えたもの、以上3つのファイルを添付してください。第1巻第2号の締め切りは約3カ月後の2014年1月末日です(同年11月末に発行予定)。

送付先ですが、前回ジャーナル専用アドレスに不具合が生じ、投稿メールが一部返送されたケースが生じているようです(後述)。そのため、これまでのジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも送ってください(「CC:」で結構です)。メールアドレスは以下の通りです(「larsnunn」の最初の文字は小文字の「L」)。

To: journal@caj1971.com  
CC: larsnunn@fue.ac.jp

上述したメール投稿の不具合に関し、2013年7月末日までに論文を投稿したが受領の返信がなかったという方がいらっしゃいましたら、送信済みメールを添付したうえでジャーナル担当理事・吉武(larsnunn@fue.ac.jp)まで至急ご連絡ください。投稿が届いていない可能性があります。ご迷惑をおかけして申し訳ございませんがよろしくお願いいたします。なお、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせも、吉武までお寄せください。

これをもって、ジャーナル改革もようやく一区切りつきました。投稿の利便性(メール投稿)、発行のパン短縮(合併と年二回発行)、再投稿に関する簡略化(再査読)など、学会員の皆さまがジャーナルをより身近に感じ、投稿しやすいシステムはある程度整いました。

去年のニューズレターでは、学会やジャーナルを支えるのはシステムではなく「人」だ、と書きました。学会の「お祭り」を盛り上げるにあたり、あとは会員の皆さま一人ひとりの「参加」が不可欠です。祭りの準備を終えた今、お祭り当日どれだけの人が集まるか、「お祭り実行委員長」であるジャーナル担当理事としては期待と不安が胸が押しつぶされそうな心境です。どうぞふるってご投稿ください。『日本コミュニケーション研究』をみんなで、幅広い視点から議論を重ね、思考を深め、日本におけるコミュニケーション研究をともに発展させる「集い」にしていきたいと思います。

## 第44回年次大会発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は、2014年6月21日(土)22日(日)に、琉球大学(沖縄県)で第44回年次大会を開催いたします。本年度の大会テーマは「コミュニケーション学と平和(仮)」です。このテーマに関連した多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表を募集いたします。また研究発表だけでなく、とくに今大会から、研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」を応募します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会と国際社会に有効な企画をぜひお

寄せてください。

応募にあたりプログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください。

① プログラム掲載用要旨

和文800字以内、英文300語以内。

② プロシーディングス掲載用要旨

和文要旨は3000字以内（脚注を含む）、英文は1000語以内（脚注を含む）。

いずれも、必ずA4版2枚にすべてを収めてください。

なお、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を800字（プログラム用）と3000字（プロシーディングス用）の要旨に収め、発表者の要旨を別々に含める必要はなくなりました。

詳しくは、CAJ ホームページのプロシーディングス投稿規定を参照ください。

応募の際は、メールの題目／subjectに「CAJ submission：氏名」と必ず明記し、担当理事の清宮宛（kiyomiya@seinan-gu.ac.jp）まで電子メールでお送りください。応募の際、この手順に従っていただけない場合、自動的にスパムメールとして処理され、メールが行方不明となることもありますのでご注意ください。応募締め切りは2014年2月20日（木）となりますので、期日には十分にご留意ください。

大会の個人研究発表では、第一筆者（及び発表をおこなう当事者）がCAJの会員であることが規定によって定められています。応募時までにCAJの会員登録をお済ませいただき、氏名の下に会員番号を表記下さい。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ（<http://www.caj1971.com/>）でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく、お願い申し上げます。

## Call for Papers for the 44th CAJ Annual Convention

The Communication Association of Japan will hold its 44th Annual Convention on Saturday, June 21st and Sunday, June 22nd, 2014, at University of the Ryukyus in Okinawa. The theme of the Convention will be "Communication Studies and Peace (tentative)." CAJ will be inviting proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Additionally, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the CAJ members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session's objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the CAJ members.

Those wishing to propose a paper presentation or a panel discussion should send an e-mail with a word file of the abstract as an attachment to Toru Kiyomiya, Deputy Director of Academic Affairs, at [kiyomiya@seinan-gu.ac.jp](mailto:kiyomiya@seinan-gu.ac.jp) by Thursday, February 20th, 2014.

We will publish conference proceedings with abstracts. Two forms of abstracts should be submitted.



(1) For the convention program:

300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese.

(2) For the proceedings:

Maximum of 1000 words in English (including foot/endnotes) or 3000 characters in Japanese (including foot/endnotes). The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4-size paper. Refer to the Submission Guidelines for CAJ proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary.

Also, at your submission, please specifically type "CAJ submission:[name]" on the subject of your mail. Failure to specify the subject as such may result in identifying your e-mail as a spam so that the mail will automatically be disposed.

The first author of a paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited in the CAJ members. If these responsible persons don't have the CAJ membership, please join the CAJ before submission and indicate the membership number on your paper. We also recommend that you clarify your current status of the membership because it is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the CAJ homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements. We look forward to seeing you in Okinawa!

## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 大会プロシーディングスの販売

年次大会のプロシーディングスの残部（第37～43回分）があり、一部¥1,000（送料、税込み）で販売しています。購入を希望される方は、学会支援機構までご連絡ください。

#### 2. 会費納入のお願い

年会費の振込用紙を7月にお送りしました。未納の方はお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。

#### 3. 学生会員・準会員登録申請締め切り

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員としての登録は、7月末日をもって締め切りました。前年度学生会員または準会員であった方で、新たに登録をされなかった方は自動的に一般会員に切り替えますのでご了承ください。なお、すでに今年度の学生会員または準会員の会費を振り込み済みで、登録をされなかった方には差額を請求させていただきます。

#### 4. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には、速やかに学会支援機構までメールまたは葉書でご連絡いただくか、学会ホームページのWebシステム上で変更をお願い致します。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録



されていれば、ご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、年会費の振込用紙での変更届けはできませんので、ご了承ください。

## 5. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

ジャーナルバックナンバーなど学会発刊物をご購入されたい場合は、学会支援機構にお問い合わせください。国立情報学研究所の論文情報ナビゲータ CiNii (<http://cinii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。(住所は最終ページに掲載)

# 広 報 局 便 り

## (1) 第43回年次大会の広報局活動

第43回年次大会は、広告、展示とも多くの企業からご協力をいただくことができました。厚く御礼申し上げます。

- ① プログラムの広告：株式会社京都書房、キャンパスサポート西南、春風社、ナカニシヤ出版、有斐閣(五十音順)。
- ② 書籍・教育機材の展示(全社両日)：株式会社京都書房、株式会社三修社、株式会社ピアソン、株式会社白桃書房、くろしお出版(五十音順)。

広報局では、次年度の大会にむけて、引き続き努力を続けます。皆様も、ご紹介いただける企業がございましたら、ぜひ広報局にご推薦・ご連絡をください。

## (2) 各支部の年次大会等

支部ニュースに詳しい予定が掲載されておりますので、そちらをご一読ください。

## (3) 広報局からのお知らせ

- ① 現在は紙媒体のニューズレターを送付するほかに、ホームページにもニューズレターのPDF版(内容の一部削除)を掲載しています。今後はニューズレターの送付を取りやめて、電子版を閲覧する方式に転換していく予定です。
- ② 学術局と連携して、HP掲載コンテンツの拡充ならびにレイアウトの見直しを図っていく計画です。
- ③ 広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ④ 会員の皆様も、国内だけでなく海外の学会を含めて、関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップしたいと思います。
- ⑤ 広報局では、任期満了により山口生史先生(明治大学)が広報局長を退任されました。お疲れさまでした。広報活動の充実にご尽力いただき、ありがとうございました。山口先生の後任として、高永茂(広島大学)が広報局長に就任しました。広報局は、新たな3人のメンバーで積極的に広報活動を展開していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ホームページ(<http://www.caj1971.com>)は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸甚です。

# 支 部 ニ ユ ー ス

## ●北海道支部

支部長 町田佳世子

北海道支部では第22回北海道支部研究大会を下記のとおり開催いたします。今回の大会テーマは「コミュニケーションと教育を考える」です。6月の第43回年次大会は「コミュニケーションと教育」をテーマに開催されました。私たち教育と研究に携わるものにとって、誰もが強く関心をもち、知見や情報を得て意見を交換したいと思っているテーマであることを改めて実感いたしました。しかしながら、校務などのご都合で年次大会に参加できなかった先生方も多いと思います。そこで支部研究大会でもこのテーマをとりあげ、皆様とともに考えていければと思っております。

講演には社会心理学・発達心理学がご専門でメタ・ソーシャルスキル概念の重要性をご提案なさっている藤女子大学の石井佑可子先生をお招きします。「人をだます」・「人を避ける」など一般的には望ましくないと言われるコミュニケーションの功罪について、いわゆる「非行少年」の更正教育に関連づけてお話をさせていただく予定です。

現在研究発表も募集しています。各支部からもぜひご参加いただき、多くの方々と意見や情報を交換できることを楽しみにしております。

1. 日時：平成25年11月9日(土)午後1時～6時（開催時間は予定）
2. 場所：藤女子大学 北16条キャンパス（札幌市北区北16条西2丁目）
3. テーマ：コミュニケーションと教育を考える
4. 大会参加費：無料

\* 研究大会終了後に懇親会を予定しています。

---

## ●東北支部

支部長 小林 葉子

東北支部研究大会を以下の予定で準備を進めております。今回は初めての山形での開催になります。東北支部の先生方はもちろん、多くの先生方に秋の山形にお越し頂きたいと思っております。

- ・2014年11月30日(土)
- ・会場：山形駅前の山形大学サテライト教室
- ・アクセス：JR 山形駅から徒歩1分
- ・参加費：無料（懇親会費は別）
- ・参加申込・問い合わせ：小林葉子（yokobaya@iwate-u.ac.jp）
- ・不規則ではありますが、東北支部ブログに大会の最新情報を掲載して参ります。<http://tohokucaj.jugem.jp/>大会プログラム予定

12：30-受付開始 開会式 その後、13：00-16：00研究発表

16：00-17：00東北支部・学術局共同企画：6月の年次大会における「パネル コミュニケーション教育研究会」Part II、といった位置づけで、同じ参加者（学術局／福岡教育大学・吉武正樹先生、新潟医療福祉大学・五十嵐 紀子先生、山形大学・石橋嘉一先生）に加え、山形大学学生などにも参加してもらい、さらに議論をしていく予定です。

17：00-17：20 支部総会 閉会式 その後、18：00-懇親会  
発表申し込み方法等

- ・氏名、所属、連絡先、発表タイトル、発表要旨200-300字程度
- ・内容は大会テーマに沿ったものである必要はありません。
- ・発表者は原則 CAJ 会員ですが、東北支部会員でなくとも歓迎です。
- ・申し込み締め切りは10月15日(火)午後6時。yokobaya@iwate-u.ac.jp へ。
- ・11月上旬までには紙媒体でプログラムを郵送致します。

---

## ●中部支部

支部長 福本 明子

2013年6月以降の中部支部の活動を報告・案内を致します。

支部会議 6月22日

2013年6月の年次大会の支部会議で、2012年度の活動と決算報告を行いました。

支部大会 12月14日

支部大会を、2013年12月14日(土)の午後に愛知淑徳大学(星が丘キャンパス)にて開催予定です。詳細なプログラムは、後日、中部支部HPとMLで連絡します。

基調講演：椎野 信雄(文教大学)「市民社会とコミュニケーションの形式

－ヨーロッパ社会のシティズンシップ教育の動向から－」

博士論文の発表1：平田 亜紀(中部大学)“Culturally-bound communication competence that impacts the quality of life of the terminally ill Japanese geriatric inpatients: a qualitative study.”(提出先大学：Teachers College, Columbia University)

博士論文の発表2：今井 達也(南山大学)“Influences of Stigma of Mental Illness on Computer-Mediated Communication”(提出先大学：University of Texas Austin)

が、予定されています。ふるってご参加ください。

書評・NL発行

例年通り、1月下旬を書評原稿の締切とし、3月にそれらを掲載したNLを発行します。テーマは、任意(書籍をご自由に選択ください)です。支部・会員に関わらずご参加いただけますので、奮ってご応募ください。詳細は、支部HPと支部MLにて。

以上です。

---

## ●関西支部

支部長 森口 稔

8月8日、京都ノートルダム女子大学で運営委員会を開催し、2013年度の秋季研究会について、下記の要領で開催することに決定しました。

日時：11月9日(土)13:00~17:00

場所：大阪府立労働センター(エル大阪)本館5階504号室

テーマ：出会い、つながり、場の創造

内容：

仕事でも、遊びでも、買い物でも、現在の我々はインターネットにどっぷりと依存しています。しかし、この日本総ネット中毒とも言える状態の一つのアンチテーゼとして、バーチャルではない血肉の通った人間関係への回帰も起こり始めています。シェアハウスや地元商店街の活性化などはその代表と言えるでしょう。

今回の研究会では、どういった物理空間を提供すれば、人と人が出会い、つながるのか、どういった場の創造が可能なのかを一緒に考えたいと思います。予定としては、ハードウェアとしての空間を作る側からのお話を聞いた後、参加者が自由に意見を交換するフリーディスカッションの時間を十分に取る予定です。CAJ会員だけでなく、多くの立場の方の意見をお聞きしたいと思いますので、ご興味のある方をお誘いの上、是非、参加ください。詳細が決まりましたら支部HPに掲載の予定です。

---

## ●中国・四国支部

支部長 ルードルフ・ライネルト

(1) 支部長の交代について報告します。

7月に支部長の選挙を行いました。投票の結果、ルードルフ・ライネルト(愛媛大学)が新しい支部長に選出されました。よろしくお祈いします。

(2) 第16回中国四国支部大会を12月7日・8日の両日開催します。今年度も、医療コミュニケーション教育研究セミナーと共同開催の形をとる予定です。プログラムの内容は、おおよそ次のようになります。

開催日：平成25年12月7日(土)・8日(日)

開催場所：広島大学霞キャンパス歯学部第3・4講義室（広島市南区霞1-2-3）

対象：CAJ 会員、医療系大学の教職員、模擬患者（SP）、学生、一般の方など

テーマ：コミュニケーション、医療コミュニケーション

研究発表：8～9件（募集中）

特別講演：愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室・秦敬治先生

演題：「効果的な気づきを与えるコミュニケーション ～大学現場での実践～」

教育講演：岡山大学医療教育統合開発センター・吉田登志子先生

演題：「ファシリテータとSPのフィードバック」

研究発表の時間も十分に設けていますので、ふるってご応募ください。発表の申し込み先は下記の通りです。

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3

広島大学病院口腔総合診療科

電話：082-257-5744 FAX：082-257-5717

e-mail：口腔総合診療科 soushin@hiroshima-u.ac.jp

(3) 中国四国支部ニューズレター（第35号）を8月末に発行しました。第36号は11月に発行予定です。

---

## ●九州支部

支部長 伊佐 雅子

1) 九州支部では、第20回記念大会を9月28日(土)に長崎純心大学で開催します。長崎は鎖国時代、外国への玄関口として発展し、国内唯一の貿易港であった出島を持ち、ヨーロッパから多くの文化が入ってきた港街です。大会テーマは「異文化交流とコミュニケーション」に決まり、特別講演と研究発表を予定しています。

講演に先立ち、長崎純心大学の片岡千鶴子学長にご挨拶を賜り、その後、同大学が立地する地域の通称「恵みの丘」の由来について簡単に紹介していただきます。

特別講演は、「日本のセミナリヨ・コレジヨで実践された教育」と題して、長崎純心大学人文学部教授兼大学院教授の片岡瑠美子氏にお話ししていただきます。16世紀、長崎の地に日本人宣教師のために開設された学校での教育内容・方法を学ぶことで、現代のコミュニケーション教育への知見を得ようというのが趣旨です。

20周年特別企画として、前西南女学院大学教授の橋本満弘先生に、感謝状と記念品を贈呈する予定です。橋本先生はCAJの第8代会長（1993～1995）を務められ、学会はもとより、社会、教育界で幅広く活躍されました。九州支部としては、感謝の気持ちをこめて先生にお礼を申し上げたいと思っています。

大会プログラムの内容は九州支部のホームページに掲載しておりますので、興味のある方は会員・非会員に関わりなく、自由にご参加ください。懇親会は、長崎駅の隣アミュプラザ1FのPapás Caféで行い、会員同士の意思疎通を図りたいと思います。

2) 支部研究紀要『九州コミュニケーション研究』（2013年第11号）は現在、査読中で、10月末をめどに発行予定である。次号の締め切りは2014年1月31日。

3) 九州支部ニューズレター（第24号）は、12月に発行の予定である。

4) 現在の役員の任期は2011年10月から2013年9月までである。次期も現役員（伊佐支部長以下）で続行と決定し、任期は2013年6月から2015年5月まで。（CAJ本部の任期に合わせる）

5) 支部の財政に鑑み、来年より大学院生（研究発表者）に旅費支援（上限¥5000）をする。





## コラム コミュニケーション教育（第2回）

# グローバル化する社会におけるコミュニケーション教育の問題点

北本晃治（帝塚山大学）



近年、学校教育の場や一般社会において、「コミュニケーション能力」という言葉が、様々な局面において取り上げられている。そして、それを磨き高めることが、現代社会に適応し、そこで生き抜くための不可欠な要件であり、「コミュニケーション教育」はそのための手段として考えられている。勿論、学校教育の場と一般社会では、それに対する考え方やアプローチには差があり、一概に論ずることはできない。しかしながら、市場原理が拡散していくグローバル化の流れの中で、それぞれのサバイバルをかけた両者の密接な連携が、より一層求められていることは確かであり、その際の留意点を明確にしておくことは極めて重要であろう。

6月のCAJ年次大会で「キャリア教育」との関連で講演を行った本田由紀氏は、「ハイパー・メリトクラシー（むき出しの業績主義）」という用語によって、「市場原理主義」が生み出した現代の社会状況に言及し、このような時代に必要とされる諸能力を、「ポスト近代型能力」として説明している。それは、「コミュニケーション能力」とも通底する、個人の人格や情動の深い部分に根ざした諸能力がその要素となり、このような社会では、個人の全存在が評価の対象となるため、常に多大な精神的エネルギーが必要とされ、結果的に潰されてしまう人々が増加すると警鐘を鳴らしている（『多元化する「能力」と日本社会—ハイパー・メリトクラシー化のなかで—』NTT出版）。

また、社会学者の作田啓一氏は、「社会化」と人間の本質的あり方との関連性において、両者の相乗的な望ましい側面だけではなく、それが人間の可能性を限定し阻害することになる場合も多いことを指摘し、「社会化」に対峙するものとして「超社会化」という興味深い概念を提出している。それは「社会化」を通して形成される役割取得的自己（ペルソナの自己）を超え出ようとするその瞬間にこそ、人間の本来の可能性に開かれた「真の自己」が表れることを意味している。但し、この「真の自己」は、実体化されたある自己像を意味するのではなく、個人が心の深層から表出してくるある方向性を目指すことにおいて、瞬間的に現れ出る「過程としての自己」である（『生の欲動 神経症から倒錯へ』みすず書房）。

ここで、「社会化」を「ラングの機能」、「超社会化」を「パロールの機能」として考えると、社会活動と言語活動が相同的であることが分かる。すなわち、前者の組は規律・体系化の働きであり、後者の組は創造性・その都度の発話の働きである。前者は後者を拘束、支配しようとするが、後者のその都度の振る舞いには、それを逃れ出る自由度が内在している。「ポスト近代型能力」とは、この「創造性・発話の自由度」をも再帰的に「社会・ラング」の体系に組み込み、規定、利用しようとする「市場原理主義」が要求する理論上の能力であって、そこには根本的矛盾があると考えられる。それは、この多分に偶発的な「創造性・発話の自由度」こそが、社会や言語の体系を生み出し変化させる大本であり、それを明確に規定してしまうことは、社会活動・言語活動そのものから、最終的に活力を奪い取ってしまうことになるからである。

さて、我々学校教育の場にある者は、「コミュニケーション教育」を実践する上で、これらの事柄をどのように考慮すべきなのであろうか。「コミュニケーション教育」の「コミュニケーション」を、「情報交流」と「相互自己（存在）開示」、「教育」を「教えること」と「育つこと」として捉えると、「規律・体系化」に対応するのは、「情報交流」と「教えること」が、そして「創造性・自由度」には、「相互自己（存在）開示」と「育つこと」が深く関連しているように思われる。両者をそれぞれ、対象化と明確化、そして効率性を重視する「父性原理的实践」、一体感と全体性、そして見守る姿勢を求める「母性原理的实践」、と呼ぶこともできるであろう。前者が後者を侵食していく現代社会のグローバル化の中で、我々は、双方の関係性とそのあり方について、しっかりと考えていかなければならないであろう。

## ▶ 日本コミュニケーション学会2013年度役員一覧 ◀

(2013年6月1日～2014年5月31日)

会長	：宮原 哲 (西南学院大学)	副広報局長 <small>(ホームページ担当)</small>	：石橋 嘉一 (山形大学)
副会長 (総務担当)	：五島 幸一 (愛知淑徳大学)	理事 (企画担当)	：丸山 真純 (長崎大学)
副会長 (学術担当)	：青沼 智 (津田塾大学)	理事 (海外渉外担当)	：高井 次郎 (名古屋大学)
事務局長	：五島 幸一 (愛知淑徳大学)	理事 (企画・学会促進担当)	：松永 正樹 (立教大学)
副事務局長	：野中 昭彦 (中村学園大学)	理事 (北海道支部長)	：町田佳世子 (札幌市立大学)
副事務局長	：森口 稔 (京都外国語大学)	理事 (東北支部長)	：小林 葉子 (岩手大学)
副事務局長	：鳥越 千絵 (西南学院大学)	理事 (関東支部長)	：綾部 功 (東海大学)
学術局長	：守崎 誠一 (関西大学)	理事 (中部支部長)	：福本 明子 (愛知淑徳大学)
副学術局長 <small>(ジャーナル担当)</small>	：吉武 正樹 (福岡教育大学)	理事 (関西支部長)	：森口 稔 (京都外国語大学)
副学術局長 <small>(年次大会等担当)</small>	：師岡 淳也 (立教大学)	理事 (中国・四国支部長)	：ルードルフ・ライネルト (愛媛大学)
副学術局長 <small>(年次大会等担当)</small>	：清宮 徹 (西南学院大学)	理事 (九州支部長)	：伊佐 雅子 (沖縄キリスト教学院大学)
広報局長	：高永 茂 (広島大学)	監事	：五十嵐紀子 (新潟医療福祉大学)
副広報局長 <small>(ニュースレター担当)</small>	：小山 哲春 (京都ノートルダム女子大学)	監事	：筒井久美子 (立命館アジア太平洋大学)

## 学会支援機構の連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F

一般社団法人 学会支援機構 日本コミュニケーション学会担当

Tel: 03-5981-6011 Fax: 03-5981-6012 E-mail: office@asas.or.jp

## 編集後記

先日ある学会のポスターセッションで「娘に嫌われる父親」というタイトルのポスターを見つけ、思わず足をとめました。「怖いから」「口うるさいから」「不潔だから」といった結果はあまり見ないようにして、ポスター下部にあった「娘とよい関係をつくるためには」という調査に注目。「話をよく聞く」「家族で過ごす時間を増やす」「黙って見守る」といったコミュニケーション上の方略と並んで「母親を大事にする」という回答があり、なるほどな、と思いきや、最後は「母親の言いなりにならないこと」。一見ダブルバインド的に聞こえる期待ですが、父親に対するちょっと複雑な敬慕の現れだと(勝手に)解釈することにして、娘の前では少し格好つけようかなと思いつつ帰宅。しかし、お土産の「なめこグッズ」に喜んでくれる娘(来年中学生)の無邪気な顔を見た瞬間、「お願いだからもう少しだけこどものままでいておくれ」と心から願う私でした……。

広報局ニュースレター担当 小山 哲春